森の名手・名人シリーズ32

名人 堀部 純行（75） 岐阜県岐阜市

聞き手 池上 真弘 静岡県立静岡農業高等学校 一年 平成21年取材

宮大工 夢の仕事 宮大工

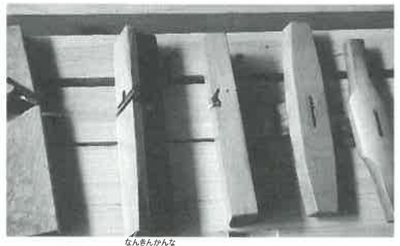
「森の名手・名人」とは、森に関わる仕事や地域生活に染み込んだ営みのうち、優れた技をもってその業を極め、他の模範となっている達人で、毎年、全国で約100名が選定されています。岐阜県においては、現在、44名の「森の名手・名人」がいます。この「森の名手・名人」を「森の"聞き書き甲子園"」に参加した高校生が「聞き書き取材」をしたものの中から誌面の関係上要点を抜粋したものです。なお、年齢、住所、学年は取材当時のものです。

1. 迷いに迷って今の仕事へ

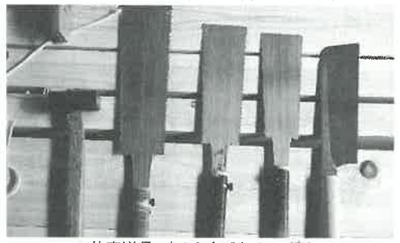
うちは明治17年から120年続く大工の家。僕の父さんもおじいさんも普通の大工をやっとった。ぼくは最初、大工なんてなりたくなかったのよ。電気屋をやりたかった。でも家業を継がなきゃね。それから大工を家で5年覚えて、宮大工のところに修業しにいったんだ。家作るようなふつうの大工が嫌で宮大工になろうと思った。僕で3代目だ。

2. 宮大工への道のり ～篠田秀吉さんの下での修業～

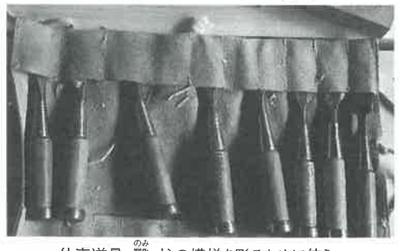
大工を家で5年覚えた後、篠田秀吉さんのもとへ宮大工を修業しにいったんだ。5年間の修業でした。篠田秀吉さんは名古屋で有名な伊藤平左衛門さんのお弟子さんで、僕が修業していた頃はもう60歳ぐらいでね。83歳まで家を作っていたよ。



仕事道具。南京鉋。中国の南京からきたらしい



仕事道具。左から金づち、のこぎり



仕事道具。鑿。柱の模様を彫るために使う。
すべての鑿の先端をしまっていて安全を心がけている。

修業は大変だった。なんせ、今と違って昔は機械が無かったからね。木を削ったり、穴を掘ったり、丸太吊ったり、今じゃ機械を使うようなことは、すべて手作業だった。最初はかんなを使って木を真っ直ぐ削ることができなかった。だから何回も練習したんだ。うまく削れたときはうれしかった。

それに昔の棟梁なんかは口数が少ないからね、技術なんかは見て覚えなきゃならないよ。修業中は休みなんかあらへん。辛いことばっか。

2年目からは姫路で住み込みだ。友達も沢山できた。辛いときはお互い励ましあったよ。

修業の5年間はついていくのに精いっぱいだった。いっきに腕がよくなるなんてことはないよ。楽しい事はあまりなかった。思い出すのもいやだ。今で言う"ストレス"だね。でもそのときは"ストレス"とかよくわからんかった。技術を頭に入れることで精いっぱい。ゆとりなんかなかった。無我夢中だったからね。

名人が手がけた、手力雄神社

～見て、聞いて～

篠田秀吉さんのもとを離れた後も何人かの宮大工の所に行って仕事を見させてもらったよ。岐阜県内では羽島、県外では鎌倉に。工事中に行ってね、休憩中のところに行って仕事について話を聞いたんだよ。その人達の考え方を尊重して話を聞いた。

3. 辛い時があったから今がある

修業中には休みが無かったけど、今はそうじゃない。必ず日曜日は休み。休みの日は休み。みんなで相談して決めるんだよ。辛かった修業時代だったけど、みんなと遊んでいたら今はないなぁ。同級生は180人おるけど、今働いているのは僕だけ。

名人が使用している工場。右にいるのが名人

4. 自分の仕事に誇りを持って

仕事は面白い。面白くなきゃ働けない。働くって幸せだな。でも年にはかなわないね。みんなと一緒に1日中かなづちもってるってことはできないよ。給料もらっている以上は働かないとね。いくら社長でも働かないけない。大きな会社じゃなくて小さな会社だからみんなで働かないと。

今こうして働けるのは、先々代が昭和の初期に土地を買ってくれたから。土地があるから今も続けられる。最初に作った工場から使い勝手のいい工場にかえたんだ。

名人 堀部 純行さんのプロフィール

- 生年月日：昭和9年10月1日生まれ
- 職　業：建築業（社寺・一般建築）

岐阜市芥見で120年続く大工の家に生まれ、幼い頃から大工になる事を夢見る。中学卒業後、父親の下で5年間修業した後、かねてからの希望であった宮大工を目指し、岐阜県で有名であった篠田秀吉氏をはじめ、何人かの宮大工について技術を学ぶ。修業時代は、岐阜県内をはじめ、姫路や京都など各地の現場をまわり技術に磨きをかけた。昭和48年に39歳で独立。岐阜県内を中心に多くの寺社の建築に携わる。平成2年に設立し社長を務める堀部建設株式会社では、受注の約八割が寺社、残りの約二割が一般住宅。平成7年、岐阜の名匠を受賞。

※原本は長文のため、文章の一部を割愛しています。

【森の名手・名人編集担当
公益社団法人
岐阜県緑化推進委員会　専務理事　臼井征雄】

平成26年度 森の名手・名人認定証伝達式が行われました

平成26年度の森の名手・名人に認定された県内のお二人に、公益社団法人国土緑化推進機構から届いた認定証が10月24日、公益社団法人岐阜県緑化推進委員会会長の 洞口　博 岐阜県議会議長から伝達されました。

今年度 森の名手・名人に認定された方

森の伝承・文化部門（紙漉き）

美濃市上野　石原 英和さん

64年間にわたり美濃和紙作りに従事され、卓越した技術を有しながらも常に技術の研鑽に努め、人に喜ばれる紙づくりを目指しておられます。また、地元小学校での紙漉きの指導等を行われるなど、地域の伝統文化の伝承にも尽力されています。

加工部門（彫刻師）

岐阜市下川手　浅野 貞夫さん

和風建築に不可欠な欄間や建具の彫刻に携わっておられ、木の持つ色の違いなど材料を見極めて、その特質を活かす高度な「象嵌」技法を得意としておられます。また、技術を活かし文化財に指定されている建物の建具修繕等にも取り組んでおられます。

伝達式

洞口会長と歓談

左から洞口博緑化推進委員会会長、浅野貞夫さん、石原英和さん、瀬上繁隆岐阜県林政部長

「森の名手・名人」とは

森や山に関わる樵(きこり)、マタギ、炭焼きなどの生業において優れた技を極め、他の模範となっている達人について、「森づくり」「森の恵み」「加工」「森の伝承・文化」の4部門を設けて、公益社団法人国土緑化推進機構が「森の名手・名人」に認定しています。

平成26年度現在の認定状況

全国の認定者数……　1,124名（本年度64名）
岐阜県の認定者数……　44名（本年度　2名）

【（公社）岐阜県緑化推進委員会　専務理事　臼井征雄】